



## 4年目の活動を始動！ 東北コットンプロジェクト

東北コットン  
TOHOKU  
COTTON  
PROJECT



東日本大震災後まもなく始まった綿花栽培は、今年も種まきの時季を迎えました。実った綿は糸になり、服やタオルなどになって、多くの人の元に届けられ始めています。みんなの思いが込められて、「東北のコットン」はこれからも続いていきます。

文/宮川真紀 撮影/中野幸英

種から花へ、そして綿へ  
少しずつ前に進んでいく

津波被害を受けた農地に綿を植え復興を目指す「東北コットンプロジェクト」は4年目を迎え、「東北の綿花栽培」も少しずつ知られるようになってきました。参加チームはスタート時の16社から、現在は80社以上に増え、東北コットンを使った製品も30社以上が手掛けています。服やタオルなど繊維製品のほか、実を取ったあとの茎を使った紙製品もつくられました。大事な収穫を、むだなく大切にしたい。それぞれのかたちで綿花栽培を行っています。

最も被害の大きかった仙台市の荒浜では、何もなかったところに綿の種をまいた頃から、着実に復興の道のりを歩んでいます。被災した生産者さんたちは新会社「荒浜アグリパートナーズ」を立ち上げ、いよいよ本格的に農業生産が始まりました。水田が広がり、農機具やビニールハウスが並ぶ光景は、まさに農業再生の姿です。今年田植えをした8ヘクタールの田んぼは、8割が震災以降初めての作付けで、耕すともまだがれきや石が出てきたそうです。同社の松木弘治さんは「会社となつて地域の農業を支える立場になることができました。これからの正念場です」と力強く語っていました。綿花は荒浜復興の象徴として、できる範囲で栽培

していくとのこと。名取市で綿花を担当する「耕谷アグリサービス」は、農地の9割が津波被害を受け稲作ができなくなり、綿花栽培をひとつのきっかけに農業を再開しました。現在は震災前よりも受託農地が増え、忙しい日々を送っています。綿花栽培も、手探りで始めた初年度から研究を重ね、確実に収穫を増やしています。昨年試験的に始めたビニールハウス栽培でかなり効果があがったことから、今年はハウス栽培を増やすほか、畑でもまき時、植える間隔、雑草対策などさまざまな工夫をして収穫量の増加を目指しています。栽培を担当する佐々木和也さんは「継続してついでいくことが、支援してもらったみなさんへの恩返し。宮城県での綿花栽培の可能性を開くのが目標です」と話し、毎日ていねいに作業を続けています。

多くの綿がとれますように  
みんなで種をまきました

農家にとって最も忙しい田植えの時季が過ぎると、いよいよ綿花の種まきが始まります。これまでの経験をふまえ、今年は生育の早い早生の品種を取り入れ、秋の長雨の前の収穫を目指します。綿花栽培2年目となる東松島農場では、畑を耕し直し、排水路を縦横につくるなど整備をすすめていきました。種まき予定日の3日前に大雨が降

り、急遽前夜にもう一本排水路を掘るなど、直前まで準備に追われていました。プロジェクトチームも参加した種まき当日は晴天にめぐまれては、畑は水が残ってかなりぬかるんだ状態。長靴のない人たちは靴を脱ぎ、裸足で種まきを行いました。JALグループからは7名が参加しましたが、初めて訪れた社員は「社内の被災地研修プログラムに参加し、このプロジェクトも気になっていました。今回のために長靴を買いました！」(経理部・田邑)

「裸足になって土の中に入ることなんてないので楽しかったです！」(JALグループ)

ランドサービス・尾形」と、農作業を肌で感じる機会となりました。

東松島農場では、少し離れた美里町のビニールハウス2棟でも今年から栽培を始めました。綿花栽培担当の菅原博さんは「圃場整備や排水路、肥料など、昨年とは全く違います。ただしそれが収穫に結びつくかはわかりませんが、毎年がチャレンジですね」と話します。荒浜では東松島の翌週に種をまき、名取ではすでに苗の定植を終えています。緑の葉が茂り、美しい綿の花が咲く夏の季節も、もうすぐそこです。



写真右/荒浜アグリパートナーズ 松木弘治さん 中/名取・耕谷アグリサービス 佐々木和也さん 左/東松島・イーストファームみやぎ 菅原博さん



### JALオリジナル 東北コットンの新商品が 誕生しました！

この夏は、お持ちのマイルを東北コットン商品とお手軽に交換いただけるミニマイル特典のラインナップに、『東北コットン・ハンカチ』をご用意しました。新作となるハンカチのイラストは、本誌で連載中の「キャプテンの航空教室」にて挿絵を手掛ける谷山彩子さんが担当。東北で育つ東北コットンと飛行機をイメージした5種類の新商品が誕生しました。



JALオリジナル「東北コットン・ハンカチ」 [www.jal.co.jp/jmb/cotton/](http://www.jal.co.jp/jmb/cotton/)



コットン (ピンク)

コットン (スカイブルー)



AIRCRAFT

AIRPORT

welcome aboard



『東北コットン・ミニ風呂敷』

(手前から)『祝鯛』/二尾の鯛を頭のほうで合わせて左右に配し、しめ縄で結んだ文様。『菊小花』/霞地に菊と小花を配した文様。菊は邪気を払い長寿を願う花として庶民に愛された。『茄子に蝶』/「何事も成す」に茄子を重ね、物事がうまく成就することを願った文様。『松竹梅』/松は不老長寿、竹は節操、梅は清らかで高貴を表す。  
※ご提供する風呂敷はご搭乗便により異なります。

JALグループは、今後も東北コットンプロジェクトを応援していくとともに、その活動を当レポートでご紹介してまいります。なお、東北コットンプロジェクトにおけるJALグループの取り組みは、以下のウェブサイトでもご紹介しています。  
[www.jal.com/ja/cotton/](http://www.jal.com/ja/cotton/)

綿の栽培、紡績、商品化、販売を参加各社が共同で展開し、農業を通じて東日本大震災の復興を目指して2011年より立ち上がった東北コットンプロジェクトに関する詳細は、右記のウェブサイトをご覧ください。 [www.tohokucotton.com/](http://www.tohokucotton.com/)

私たちが取り組むCSR活動に関する詳細は、こちらでもご覧いただけます。 [www.jal.com/ja/csr/](http://www.jal.com/ja/csr/)